黒澤　満 教授

黒澤満教授退職記念号に寄せて

学長　加藤　映子

黒澤満教授が、2019 年度末に退職されます。黒澤教授は大阪大学を定年退職後、2008 年より 12 年にわたり大阪女学院大学の研究・教育の発展のために大いに貢献されました。

黒澤教授と大阪女学院との関わりには、深いものがあります。先生は 4 人の姉妹に囲まれてお育ちになりましたが、そのうちの 3 人が大阪女学院高校のご出身です。また、大阪大学時代には、大阪女学院短期大学専攻科（大学設置に伴い閉科）の非常勤講師としても教鞭をとってくださいました。さらに、そのときの教え子の何名かは大阪大学法学部に編入し、引き続き先生の教えを乞うことができたのです。大阪大学退職後に、多数受けたに違いないオファーの中から大阪女学院大学を選んでいただけたのも、本学短期大学専攻科での学生との関わりがあってのことだったものと拝察いたします。

振り返れば、黒澤教授は、教育面において以下のような学科目をご担当になりました。
短期大学：国際社会と法、OJC ゼミ
短期大学専攻科：国際関係論特講
大学：International Public Policy, Graduation Project（卒業研究）、国際関係入門、国際公共政策基礎、国際法 1、国際法 2、OJU ゼミ、国際関係学、国際法
大学院：Theory on Peace and Security, Theory on International Relations, International Law, Research on Peace and Security, Research on International Relations, Research on International Disarmament Law, Research Guidance M1, Research Guidance M2, Research Guidance DI-1, Research Guidance DⅡ-1, Research Guidance DⅡ-2, Research Guidance DⅢ-1, Research Guidance DⅢ-2

「教育と研究は得意です。任せてください。しかし、マネジメントは不得意分野です。」というのが黒澤教授の口癖です。このお言葉通り、先生を敬愛してやまない学生たちは「黒澤先生は私たちの知らないことを丁寧に教えてくれる。質問には何でも答えてくれる。準備してこない学生も指導してくれる。」と申しております。また、大学院においては、黒澤教授の指導を受けた学生が、本学大学院の博士後期課程修了者の第 1 号となりました。

次に学内行政においては、副学長、研究科長、国際共生研究所（RIICC）の所長、研究活動委員会の委員長を務められ、特に平和・人権研究会は、74 回を超える開催となりました。また、本学の紀要にも自らの投稿を通してその価値を高める努力をされ、他の教員に対しても投稿を積極的に促されたのでした。

そして、研究面においては、国際法、軍縮法、国際安全保障を専門とする法学者として、軍縮国際法の開拓者として国内外で活躍され、核兵器不拡散条約（NPT）の再検討会議に政府代表団の一員（有識者枠）として外務省から招聘されました。「現代軍縮国際法」「軍縮国際法の新しい視座――核兵器不拡散体制の研究」「核軍縮と国際法」「核軍縮と国際平和」「軍縮をどう進めるか」「軍縮国際法」「核軍縮と世界平和」「核軍縮入門」「核兵器のない世界へ－理想への現実的アプローチ」「核軍縮は可能か」などの著書も刊行されています。学会活動の面でも、日本軍縮学会会長を務められ、核や軍縮問題についてNHKや新聞各社が常に先生の見解を求めてくるような状態で、コメントなどが報道されるたびに私も大変誇らしく思っておりました。

2019年秋のローマ教皇来日の折に意見を求められた際には、「教皇のメッセージは指導者だけでなくすべての人々に向けられており、核軍縮への動きを政治家だけでなく、市民にも求めている。これらはフランスなどカトリック教徒が多い国をはじめ、各国の世論に影響を与える可能性がある」と述べておられます。

最後になりますが、個人的には、授業アンケートの結果が出るたびに、黒澤教授とお互いの授業評価を比べたことが懐かしい思い出です。私は先生のことを“Mr. Punctual”とお呼びしていましたが、時間厳守の先生は学生たちに緊張感をもって授業に臨む姿勢を植えつけてくださいました。同じフルブライト同窓生として、今後も、そちらの活動でお会いできることを楽しみにするとともに、退職後も研究に従事されるであろう先生のご健勝を心からお祈り申し上げております。